



Mウイングで開かれた通算500回目の記念落語会(昨年9月)

～ プロを招いて45周年 ～

まつもとらくご かい

松本落語会

ニュース 学ぼう



皆さんは「落語」をご存じ

ですか? 「落語家」「噺家」と呼ばれる演者が一人で語る日本の伝統芸能の一種で、最後は聴衆が思わず笑ったりうなずいたりする結びの言葉「落ち」でまとめます。落語家は登場人物の会話のやりとりを一人で演じ分ける巧みなりが、運管が引き継がれました。昨年9月20日に、500回目の公演が行われました。地方都市でこれだけ息長く続くのは珍しく、世話人会の人たちは「国内随一」と胸を張ります。45周年となる本年度、507～518回が計画され、513回目の10月16日にはMウイングで45周年記念の落語会が予定されています。世話人会の会長を務める百瀬澄之さん(60)は、落語の魅力を一何よ

に落語好きの住民でつくる「松本落語会」があり、プロの落語家を松本に招いて聞く落語会を昭和48年から毎月続け、今年で45周年の節目を迎えました。

松本落語会は、平成26年に78歳で亡くなった大島啓愛さんの呼びかけで始まりました。古典落語を中心に落語会を続け、多くの落語家にとつて親しみのある地方都市になりました。大島さんが亡くなり、会が続けられるか心配されましたが、市民や落語家たちへ

45周年の節目の年の落語会を計画する松本落語会の世話人会の会員たち



楽しい話 みんな笑顔に

「10歳で落語に夢中になった子供もおり、多くの子供に共感したり落語家を目指したりしてほしい」と願っています。落語クラブや研究会を本格的に立ち上げたい中学校や高校があれば、何らかの支援もしたいと考えているそうです。

4月の落語会は16日午後6時半から、松本市中央3の瑞松寺で開かれます。テーマは春恒例の「長屋の花見」。この機会に落語会デビューはいかが? (小岩井貴之)